

### プログラム3「各領域の看護学概論」

学部等名	看護学部
目 的	各看護学領域の概論を学び、看護学の概要と近年の動向を理解する。
プログラムの概要	本プログラムは、現役看護師や離職した看護師のみならず、看護学に関心のある社会人を対象とする。各看護学領域の概論を学び、看護学についての理解を深め、近年の看護学の動向について学ぶ機会とする。大学における看護学教育の概要を学び、看護および自身の健康への関心を高める機会を提供する。
プログラムの総時間数	169.5 時間
修了に要する時間数	79.5 時間以上
定 員	5 名
修了要件	「看護学概論」必修とし、最初に履修すること 8 科目の中から 4 科目以上を履修すること
申込先	羽島教務課(羽島キャンパス 7 号館 1 階)
履 修 料	検定料 5,000 円、科目履修料 2,500 円×単位数 ※再履修する場合はそれぞれの単位数に相当する金額が必要です。

#### 修了要件受講科目一覧

授業科目名	看護学概論	担当教員名	平野 昭彦
授業の方法	講義 22.5 時間(15 週にわたり週 1 回 90 分受講)		
キャンパス	羽島キャンパス	必修・選択	必修科目
単位数	2 単位(¥5,000)	開講期	前期
授業内容	<p>【到達目標及びテーマ】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護の構成要素である健康、環境、人間、看護について説明できる</li> <li>2. 主な看護理論の概要について説明できる</li> <li>3. 看護の対象及び看護の役割と機能について説明できる</li> <li>4. 保健医療サービスと看護活動について説明できる</li> </ol> <p>【授業の概略】</p> <p>「看護とは何か」という基本的概念について学習する。看護学の主要概念である人間・健康・環境・看護、および看護実践の理論的根拠となる看護理論、看護学の発展の歴史的背景を踏まえて、広い視野から学ぶ。そして現代における看護の役割や機能、看護活動の内容理解を深める。看護過程の基本的知識を学び、2 年次に学習する看護過程の事例展開に繋げる。さらに地域で生活する人々に対して疾病予防、健康維持・増進として看護の役割を理解する。これらの学習を通して、自らの看護観を育んでいくことを目指す。</p>		
授業科目名	成人看護学概論	担当教員名	古川 智恵
授業の方法	講義 22.5 時間(15 週にわたり週 1 回 90 分受講)		
キャンパス	羽島キャンパス	必修・選択	選択科目
単位数	2 単位(¥5,000)	開講期	前期
授業内容	<p>【到達目標及びテーマ】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人各期の人々の身体的、心理的、社会的な特徴を述べることができる。</li> <li>2. 成人看護学で使用する理論・モデルの特徴を説明できる。</li> <li>3. 成人期にある人の健康と健康障害の特徴について述べることができる。</li> <li>4. 成人期にある人に健康問題の特徴を踏まえた看護を提供することの意義と方法を考察することができる。</li> </ol>		

	<b>【授業の概略】</b> 成人期にある人の価値観・健康観の多様性、役割や健康問題など、ライフサイクルの中で生活者としての特徴を踏まえ、健康上のニーズ及び彼らの健康問題に関する知識を修得し成人看護の役割と機能を学ぶ。		
授業科目名	老年看護学概論	担当教員名	中尾 治子
授業の方法	講義 22.5 時間(15 週にわたり週 1 回 90 分受講)		
キャンパス	羽島キャンパス	必修・選択	選択科目
単位数	2 単位(¥5, 000)	開講期	前期
授業内容	<b>【到達目標及びテーマ】</b> 1. 看護学における老いの捉え方について論じることができる。 2. 老年期にある人の健康と障害について説明できる。 3. 老年期にある人の価値観や信念を尊重する意味について論じることができる。 4. 老年期にある人とその家族の関係性について論じる事ができる。 5. 老年期にある人がおかれている日本の保健医療福祉システムについて説明できる。 6. 災害時における高齢者支援の必要性について説明できる。 <b>【授業の概略】</b> 老年看護学の導入として、ひとが老いるとはどのようなことか成長発達段階と発達課題の視点から、加齢（老化）の意味を考え、老年期の特徴を概説する。そして、加齢（老化）に伴う健康障害や健康課題を身体的・精神的・社会的・生活的な側面から概観する。また高齢者を取り巻く社会および制度・政策を確認し、高齢者の QOL を高める看護と家族への役割と機能を概説する。さらに災害における災害弱者についての状況を概観する。現在の高齢者の捉え方として、高齢者の健康寿命を延ばす支援を考える必要がある。そのために「生活を支える」ことに重点を置いて考えていきたい。		
授業科目名	小児看護学概論	担当教員名	大森 裕子
授業の方法	講義 12 時間(8 週にわたり週 1 回 90 分受講)		
キャンパス	羽島キャンパス	必修・選択	選択科目
単位数	1 単位(¥2, 500)	開講期	前期
授業内容	<b>【到達目標及びテーマ】</b> 小児看護の対象である子どもと家族の特徴、それらを取り巻く社会環境を学び、小児看護の役割と課題について考える。 1. 小児看護の対象である子どもと家族の特徴を理解できる 2. 子どもに関する統計、政策を理解し、子どもが育つ社会環境について考察できる。 3. 子どもの権利擁護の必要性和倫理的配慮について考察できる。 4. 子どもを取り巻く社会環境、小児医療の現状と課題を知り、小児看護の役割について考察できる。 <b>【授業の概略】</b> 子どもから大人への成長・発達する変化を踏まえて、小児看護の特徴と看護の果たすべき役割について学習する。子どもに関する統計の数値から子どもに安全な環境を提供する重要性や学習環境を保護する必要性、子どもの健康維持のための母子保健事業や児童福祉行政などの政策を学び、健やかな育ちの支援について考える。子どもの人権の歴史的背景から、権利擁護の必要性和倫理的配慮について考察する。子どもを取り巻く社会や小児医療の現状から子どもと家族の置かれている状況を知り、個人・家族・集団・組織の支援をしていくために、小児看護の果たすべき課題を考察する。		
授業科目名	母性看護学概論	担当教員名	石川 眞奈美
授業の方法	講義 22.5 時間(15 週にわたり週 1 回 90 分受講)		
キャンパス	羽島キャンパス	必修・選択	選択科目

単位数	2 単位(¥5, 000)	開講期	前期
授業内容	<p>【到達目標及びテーマ】</p> <p>現代社会における母性と女性のあり方について考え、対象に応じた看護を実践するための基礎的知識習得する。</p> <p>1. 「母性」とは何か、セクシュアリティ、リプロダクティブヘルス・ライツの観点から、その概念の変遷を学び、母性看護とは何かを考察することができる。</p> <p>2. 「母性」を取り巻く環境との関連から母性看護の対象者とその健康課題を理解し、支援の方法について述べるることができる。</p> <p>【授業の概略】</p> <p>母性看護学の概念、母性看護の意義・役割を学ぶ。母性保健の変遷と現状を踏まえ、次世代を産み育てる女性の健康の維持・増進、疾病予防に関する看護活動の課題を考えることができる。</p>		
授業科目名	精神看護学概論	担当教員名	原田 浩二
授業の方法	講義 22.5 時間(15 週にわたり週 1 回 90 分受講)		
キャンパス	羽島キャンパス	必修・選択	選択科目
単位数	2 単位(¥5, 000)	開講期	前期
授業内容	<p>【到達目標及びテーマ】</p> <p>1) 人間のライフステージにおける精神の発達と、それに影響を与える諸要因・危機的状況について説明できる。</p> <p>2) 心の健康の保持・増進および疾病の予防・回復に必要な援助や保健・医療・福祉制度の仕組みを説明できる。</p> <p>3) 精神医療・看護の歴史的変遷から人権擁護について考察し、自分の言葉で論じることができる。</p> <p>4) 心の健康問題を抱える人の「生きにくさ」を知り、ストレングスに着目することの重要性を説明できる。</p> <p>【授業の概略】</p> <p>人間の精神（心）の機能・構造、および発達に影響を与える諸要因と危機的状況について学習する。特に、人間のライフステージや生活の場における心の健康問題を中心に、現代社会が抱える健康問題への理解を深めるとともに、心の健康を保持・増進、回復するために必要な看護および心の健康を支える保健・医療・福祉制度の仕組みを学ぶ。さらに、精神医療・看護の歴史的変遷を学ぶことにより、現代社会における精神保健、精神看護の諸問題・課題および人権擁護について考える。</p>		
授業科目名	在宅看護概論	担当教員名	石原 多佳子
授業の方法	講義 22.5 時間(15 週にわたり週 1 回 90 分受講)		
キャンパス	羽島キャンパス	必修・選択	選択科目
単位数	2 単位(¥5, 000)	開講期	後期
授業内容	<p>【到達目標及びテーマ】</p> <p>1 在宅看護の基本理念について理解できる</p> <p>2 在宅看護の対象と生活について理解できる</p> <p>3 家族を理解するための理論やモデルを理解できる</p> <p>4 地域包括ケアシステムと地域包括支援センターの機能を理解できる</p> <p>5 在宅看護を支える仕組み・社会資源について理解できる</p> <p>【授業の概略】</p> <p>療養者とその家族だけではなく、地域で暮らすあらゆる人々を看護の対象とし、地域で健康と暮らしを支える看護とは何かを基軸に、尊厳をもってその人が望む生活を実現するための社会の仕組みや社会資源、看護職の役割について理解する。また社会の変化に即した在宅看護のあり方を学び、地域で暮らす療養者や家族のニーズを満たすための包括的支援の必要性を理解する。</p>		

	る。		
授業科目名	公衆衛生看護学概論	担当教員名	古澤 洋子
授業の方法	講義 22.5 時間(15 週にわたり週 1 回 90 分受講)		
キャンパス	羽島キャンパス	必修・選択	選択科目
単位数	2 単位(¥5, 000)	開講期	後期
授業内容	<p>【到達目標及びテーマ】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公衆衛生看護学の変遷を知り、理念や目的を理解し、学ぶ意義・必要性を説明できる</li> <li>2. 公衆衛生看護の対象・活動の場や活動の根拠などを説明できる</li> <li>3. 地域の人々の健康課題を明確にし、それに対応する公衆衛生看護活動の意義・方法を説明できる</li> </ol> <p>【授業の概略】</p> <p>公衆衛生看護の基本理念・目的、ヘルスプロモーションを理解する。地域に住む対象者の健康問題とその影響要因を特定し、個人・家族・集団・コミュニティレベルでの疾病予防、健康状態の改善、多職種との連携を目指して行われる看護活動を学ぶ。対象別・健康課題別の活動内容、健康教育や相談による予防的介入を基盤とした看護活動を学ぶ。</p>		